

12 漢代の医療技術について

和田 裕 一

中国は古くから記録が豊富であるため、古代であつてもその医療技術の解明が可能であると考えられる。そこで今回、中国古代、ことに漢代に行われたと考えられる医療技術の復元を試みたい。そこに、中国医学の端緒を見いだすことができるはずである。

漢代の医療技術を復元するにあたって、今回は医書ではなく、一般の哲学・文学書を使用する。そこには、特別の地位にあつた医者の特権知識ではなく、一般の知識人の医学知識が反映されていると考えられるからである。今回使用する文献は、『史記』や『韓非子』といった、ありふれた文献であるが、そこに登場する医師たちの医療技術についての記述を無視することはできない。古代の医師の地位は決して高いものとはいえず、その記録は

少ない（このことは天文記録が膨大であることと比較されない）。そこで、医書という限られた文献に頼るのではなく、一般の文献をも狩猟する必要がある。

中国古代を代表する名医に、扁鵲がいる。扁鵲の事跡を記した文献は多い。しかし説話に従えば、扁鵲は、紀元前六世紀から紀元前三世紀にわたつて活躍したことになる。また、地理的な行動範囲もあまりにも広い。このため、扁鵲という一人の医者がいたのではなく、多くの名医を「扁鵲」という名で代表させたものであろう、というのが有力な説である。そして、扁鵲説話を記述しているのは、『史記』扁鵲倉公列伝を初めとして、いづれも戦国末期から漢代の書物である。このことから、扁鵲説話を額面通りに受け取つて、紀元前六世紀から紀元前三世紀にかけての医療技術がそこにあると見ることはできない。

だが、扁鵲説話が記された年代に、扁鵲の医療行為を比喩として用いていることから考えて、扁鵲説話にはそれが記された時代、すなわち戦国末期から漢代初期の一般人の医療に対する考え方が反映されていると考えられ

る。つまり、扁鵲の行った医療の技術について知ることで、戦国時代末期から漢代にかけての医学水準を知ることが可能であると考えられるのである。多くの名医たちの技術が、「扁鵲」という伝説の名医に託されているのだから、逆に扁鵲の医療技術を知ること、当時の名医たちの医療技術、もっと正確に言えば、一般の知識人が持っていた「名医とはどのようなものであるか」という概念を知ることができるといわけである。

次にあげるべき古代の名医に、淳于意がいる。淳于意は倉公とも呼ばれ、『史記』扁鵲倉公列伝にその事跡が述べられている。淳于意は娘の上書によって救われたエピソードが有名であるが、それ以上に、詳細なカルテを残していることが注目される。また、淳于意の時代と『史記』の編者である司馬遷の時代はさほど離れていないため、このカルテはかなり信用できると考えられる。しかも、このカルテは一般人という「フィルター」を通していない純粋な記録であるから、そこには生の医療技術を見ることができるといえる。つまり、このカルテを元にして、淳于意が活躍した漢代初期の医療技術を復元することがで

きるのである。

また、『韓非子』や『春秋左氏伝』には、無名の医者たちが登場する。彼らの事跡もまた、当時の医療水準を知ることのできないものである。

今回、これら古代の医師たちの事跡をもとに、彼らはどうのように診断を行い、どのような治療を行ったかを解明したい。

(二松学舎大学文学部)